

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット共通 2F.3F.4F)

事業所番号	2792200228		
法人名	有限会社 さざなみ		
事業所名	グループホームさざなみ大池橋		
所在地	大阪市生野区中川西2-26-5		
自己評価作成日	平成31年3月29日	評価結果市町村受理日	令和元年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成31年4月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>楽しく自由にありのままにという理念を掲げています。言葉のとおり、職員が入居者様のお一人おひとりをありのままに受け入れ、また、入居者様も職員をありのままに受け入れて頂き、お互いに歩み寄り、楽しく過ごしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、幹線道路沿いの5階建ての1階に小規模多機能型居宅介護を併設して、2ユニットで開所して4年目を迎えている。近隣には1人暮らしの高齢者が多く、入居希望者が多数おり、本年3月より新しく着任した管理者の奮闘によって、念願の3ユニットとして運営することが出来た。管理者は近隣住民と積極的な交流を心がけ、地域の花見や夏祭りに参加し、自治会役員をバーベキューに招待して、利用者と一緒に時間を過ごしてもらっている。毎日調理担当の手づくりの食事を提供し、時には寿司の出前や、利用者希望のたこ焼き・焼き芋・ホットケーキなどのおやつレクリエーションの機会がある。管理者の交代も落ち着き、職員は研修会に参加してお互いにケアのレベルアップに努め、「利用者のために頑張ります」「管理者についていきます」と口にして、チームワークの良さが伺える。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	楽しく自由にありのままに、入居者様を迎入れ、ご本人の意思を尊重し、管理者と職員が日々の中で共有しています。	法人理念を「1楽しく自由にありのままに 2残された力で暮らす喜び 3家庭的な愛に溢れた暮らし 4地域との交流と連携を図る」として玄関やフロアに掲示し、唱和して実践につなげている。今後は事業所独自の理念の作成に向けて話し合いをするとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	4月に桜祭り・8月夏祭り・9月敬老会に参加させて頂き、地域との交流を図っています。	自治会に加入し、地域行事の桜まつり・夏祭り・敬老会に参加しており、事業所のバーベキューパーティーに自治会役員を招待するなど、地域と良好な関係を築いている。事業所は、災害時に於ける地域の高齢者の避難場所として、自治会より要請を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、中川地区の町会長様・民生委員様・地域包括様へ、日々の報告をしています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の運営推進会議にて、ご入居様1名も出席して頂き、日常での生活や入居者様への対応など、実際に聞き取り、体験して頂いています。	会議には、地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員・利用者・職員、時には後見人や法人代表が参加して、2か月に1度開催している。事業所の現況報告や行事予定の報告をして、地域の人からは行事などの情報や意見を受け、事業所で活かしている。独居の利用者が多く、会議への家族の参加に向けて工夫を模索中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所への提出書類など、当施設の担当者や区役所のケースワーカーと連絡を取り合い、協力関係を築くように配慮しています。	担当窓口へ申請などの手続きに出向き、報告や相談をしたり、電話で連絡を取り合っている。キャラバンメイトを務め、行政の手伝いに出かけたり、研修の情報を得るなど、双方向の関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の管理者会議や施設内研修にて、検討・話し合いをし、職員1人ひとりに理解してもらうように取り組んでいます。	毎月25日を身体拘束についての研修日と決め、拘束しないケアの話し合いをして理解し、実践に取り組むようにしている。日々不適切な対応に気づいた時はお互いに注意し合っている。玄関・ユニット入り口は安全上施錠しているが、利用者の行動を把握して近くを散歩し、閉塞感のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて虐待の種類や、自身に心当たりがあるかないかなど、職員全体で話し合いの場を持ち、意見交換をし、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見人などの手続きを見てもらい、時には一職員として後見人と話し、体験をし、今後につなげています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明の途中などに質問時間を設け、理解・納得して頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、ご家族様が面会に来られたり、ケアプランでの説明の際に意見を伺っています。	家族が訪問した時に話や要望を聞いており、3か月に1度は電話をかけて利用者の様子を伝え、要望も聞くようにしている。利用者からは、居室変更や食事に関する意見・要望を直接聞いて反映するよう努め、後見人からも意見を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議を設け、業務の意見や施設内・施設外研修の提案等を聴き、働きやすい職場になるように努めています。	毎月の職員会議で意見・提案を話し合い、議事録を作成し、欠席者にも開示して皆で共有してケアに反映している。管理者とは年3回の面談があり、資格取得などの相談や、意見を聞く機会を設けていて、働きやすい職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回、自己評価を行い、面談をし、給与など、反映出来る様にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者から管理者、管理者からフロアリーダー、フロアリーダーから職員へ申し送りや介護技術などの伝達をし、向上していくように環境づくりに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本社会議後に研修をかねた、管理者だけの会議を設け、情報交換が出来る場をもっています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族・ケアマネ・ケースワーカー等から、ご本人の状態(医療・精神・人体)を伺い、ご本人との会話をしながら、相談時より安心して頂けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にて、ご家族様やご本人の当施設の見学や、不安・要望に応えるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時や見学時のなかで、その人に合った支援をケアプランに取り入れ、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援させて頂く中で、共に笑い・共に悲しむなど、一緒に時間を過ごす者同士、関係が出来るように声掛けなどを行うように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内でのイベント等、ご家族様に連絡を入れ、一緒に時間が過ごせるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の公園など、外出の機会を持ち、馴染の場所に散歩に行くように心がけています。	家族が訪問した時、利用者と一緒に馴染みのスーパーに買い物に出かけている。元職員の喫茶店に出向いてお茶を飲み楽しむなど、関係継続の支援に努めている。近くの公園に出かけて馴染みの人と出会うよう付き添い、各フロアーには電話を置いて利用者が何時でも連絡できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お食事・おやつ・行事など一緒に過ごすことが出来る様に職員が、声掛けをして、関わりあえるように配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様・ご本人様のご希望を伺い、希望時のご相談・アドバイスをを行い、終了後もフォローが出来る様に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	最低3か月に1度、ご家族・ご本人に希望や意向を伺い、出来るだけ対応するように努めています。	契約時に利用者の自宅を訪問し、家族や利用者から思いや希望を聞いてフェイスシートやアセスメントシートを作成し、日々の暮らしの中の言動や様子からも、その人の思いや意向の把握に努めている。職員会議時や申し送り時に把握した情報を共有し、その人らしい暮らしの支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族・前ケアマネやケースワーカー・包括など、生活歴や既往歴を伺い、ご本人が不穏・不安にならないように環境に配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の食事量・血圧・様子を記録に残し、日々のなかで心身の状態などの把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前には、必ず、ご家族様・本人様のご意見を伺い、フロアの職員同士での会議を開き、計画作成に取り組んでいます。	作成したアセスメントシートを基に介護計画が作成し、毎月モニタリングを実施して、関係者や利用者を交えて担当者会議を開き、医師の意見も参考にして介護計画書を作成している。状態に変化があれば随時見直し、その人の状況に沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の心身の状態・様子を記録し、入居者様にとって今はなにが必要なのかを話し合い、見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の要望があれば、その都度、職員同士で検討し、現実の可否かを話し合うようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動に参加したり、当施設の会議等に入居者も数名参加をし、地域との交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、24時間、看護が受けられる契約をしており、入居者様との信頼に繋がるような体制を整えています。	かかりつけ医は利用者・家族の希望で決めている。内科・外科の協力医の往診が毎週あって受診することが出来、眼科は月1回、歯科は毎週受診することが出来る。24時間のオンコールの契約があり、適切な受診の支援を行っている。診療状況は請求書と一緒に毎月家族に送付している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携をとり、異変時など24時間のオンコールで対応しています。また、訪問看護とお連携しており、適切なアドバイスなど、支援して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居様が入院して際など、ケアマネが病院に伺うなど、病院のソーシャルワーカーや看護師、医師から情報を頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には、主治医・看護師・ご本人・ご家族様と話し合い、今後の方針を決めています。また、ご家族様の心理的負担も考慮して、対応しています。	契約時に重度化や終末期について説明して同意書を作成している。状態に変化が見られた時は、主治医より家族に説明して方針を決め、同意書を交わし、関係者と連携して支援に取り組んでいる。職員は随時研修を受けて対応を習得し、今までに看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居様様の急変や事故発生時にも、職員から管理者や看護師に連絡が取れる体制を整え、電話での指示や実践での指導に当たっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の訓練の際は、年に2回の昼・夜の訓練を行い、火災・地震・水害等の指導を行っています。また、水害に対しては、現在、中川地区の会議にてマップを作成されており、水害対策に対応出来る様に整えています。	マニュアル・連絡網を作成し、年2回の消防訓練を実施している。自治会と共に防災マップ作りを作成し、災害時の避難所として要請を受けている。法人で災害時の非常物品を用意しているが、事業所には準備しておらず、今後は準備が必要と思われる。	年2回の訓練は実施しているが、近隣住民の参加が得られていない。運営推進会議で参加を呼びかけて、協力体制を構築することが望まれる。また備蓄を用意し、日頃よりミニ訓練を実施して災害時に備えることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年2回の研修や日ごろからの指導にて、入居者様のプライドが傷つかない言葉がけをするように努めています。	接遇研修を実施して、利用者のプライドを損なわないよう言葉遣いに気を付けて対応している。不適切な対応に気づいた時はお互いに注意している。トイレ誘導の声かけにはプライバシーに配慮している。今後はさらに外部講師を呼んで研修を実施する計画がある。個人情報の書類などは鍵のかかったロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、入居者様のご希望に添うように対応させて頂いています。また、言葉で困難な方でも、ジェスチャーや行動で示して頂くように心がけています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、入居者様に合った1日の過ごし方を支援出来る様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族様と相談をしながら、個人の好みを尊重しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、施設内で調理しており、入居者様の嗜好を把握して、提供しています。また、準備や片づけなど、お手伝いをして頂いています。	食事は、建物1階で調理担当者が交代で調理し提供している。利用者の中で出来る人は配膳・下膳を行っている。行事食を取り入れたり、寿司の出前の日や、たこ焼き・ホットケーキなどのおやつレクリエーションがあり、誕生日にケーキを買って皆でお祝いして楽しんでいる。家族と外食に出かける人もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分摂取量を記録し、入居者様の健康状態の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回、訪問歯科が来設され、1人ひとりの口腔状態を確認して頂き、指導して頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、記録として残し、自立に向けた誘導・支援に努めています。	布パンの利用者が多数おり、声かけしてトイレでの排泄支援をし、出来るだけオムツをしないケアに努めている。夜間は声かけをしたり定時のオムツ・パッド交換をし、出来るだけ安眠を妨げない支援をしている。夜間ポータブルを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分量を1000CC以上と定め、少ない方など、朝の申し送り確認をし、その後の対応をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴以外でも、ご本人の希望や体調により、入浴して頂いています。また、個々に合わせて、足浴なども実地しています。	週2回を基本に時間・曜日は柔軟に対応し、毎日入浴している利用者もおり、その人に合った入浴の支援をしている。拒否する人には無理強いしないで足浴や清拭に替え、清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間の決まりはありますが、個々に応じて、対応させて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各フロアに薬情報ファイルを設置し、職員が確認し、把握が出来る様に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食事の配膳をして頂いたり、散歩や喫茶店などの外出の機会を設け、気分転換が出来る様に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日など、近くの川沿いを散歩したり、ライフに買い物に行くなどの、ご本人の希望に出来るだけ沿った支援をしています。	日常的に毎日近くや川沿いを散歩したり、コンビニに行ったりしている。スーパーに買い物に出かけたり、家族と一緒に衣類や好きな物の買い物にでかける人もいる。地域の桜祭りや夏祭りにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族様と相談し、ご本人が自由に使えるお金を管理させて頂き、必要に応じて、使えるように対応させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各フロアに電話を設置。ご希望時に電話が出来る様にしています。また、電話機の使用が困難な方には、職員が支援させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは、定期的に清掃をし、清潔が保てるように努めています。	玄関は大通りに面していて、共同空間は採光が良く明るい。廊下はゆったりとして、洗面台が設置されている。対面キッチンとなっており、利用者を見守りやすい配慮がされている。リビングには花が置かれ、壁には折り紙の作品が飾られている。ラジカセから音楽が流れ、居心地良い雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、誰でも好きな時間・好きな場所に行けるように環境を整えています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際には、ご自宅で使用されていたタンスや衣類などを持ち込み、出来る限り住み慣れた環境にするように努めています。	居室にはエアコン・カーテン・ベッドが用意されている。利用者はテレビや使い慣れた筆筒・衣装ケースを持ち込み、家族の写真を飾り、その人らしい居心地の良い部屋づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は全室個室になっており、個々の身体的状態により、ベッドの位置やタンスの配置などの変更をし、その人に合った環境作りに努めています。		